

消防ヒヤリハットデータベース事例回答シート

【事故概要について】

1. 事故・ヒヤリハットの別	事故
2. 体験した事例の名称	山間地救助活動中の落石による隊員の受傷事故。
3. 体験した事例の中心的要素	計9名の隊員で、要救助者のいる現場に向け斜面(斜度30～40度)を登っている際、先行していた隊員Aが浮石(約40cm)を落下させてしまい、下方にいた隊員Bの左膝に当たり負傷したものの。
4. 体験した事例の原因・理由	隊員Aは活動環境に対する警戒心が薄かった。 隊員Bは、足場の悪さと前方直近の隊員の動きに気をとられ、落石発生の発見が遅れた。 活動隊として、危険に対する伝達要領、共有方法が徹底されていなかった。

【体験した事例の直接的原因について】

1. 体験した事例の直接的な原因	情報入力に問題があった。(指示や助言が聞こえなかった。近くの隊員に気付かなかった等)
------------------	--

【体験した事例について】

1. 発生日時	平成26年9月21日 午前11時頃
2. 発生した当時の天候	晴れ
3. 発生した活動現場	屋外:山林内で足場の悪い傾斜面(斜度30～40度)。
4. 体験した事例の種類	他人が、回答者を負傷させた。
5. 事故の程度(ヒヤリハットの場合、仮に負傷したときの程度)	軽傷の怪我
6. どのようなことが起きたのか(起きそうになったのか)	飛来・落下ぶつにぶつかる
7. 事例体験時の活動	救助現場活動初期
8. (7の活動中)どのような作業中に発生したか	進入・退出
9. 同様の体験は、これまでにどの程度の頻度で体験していますか。	初めて体験した

10. ヒヤリハット体験当事者の属性（回答者は当事者A）



○当事者A	年齢[27]歳、勤続年数[3]年、現場経験年数[1]年、階級[消防士] 同様の活動 [初めて]、任務 [隊員]
○当事者B	年齢[24]歳、勤続年数[6]年、現場経験年数[2]年、階級[消防士長] 同様の活動 [過去に1,2回程]、任務 [隊員]
○当事者C	年齢[]歳、勤続年数[]年、現場経験年数[]年、階級[] 同様の活動 []、任務 []
○その他(当事者が4人以上の場合)	

11. 事例発生の経過。



	誰が(何が)	なにをした	その他・備考など
経過1	A及びBが	山林内進入開始	救助隊5名 消防隊3名 救急隊1名
経過2	Bが	斜面の浮石を落石させた	
経過3	Aが	落石が左膝に当たり負傷した。	
経過4			
経過5			
経過6			
経過7			
経過8			
経過9			
経過10			
経過11			
経過12			

【その事例発生時の状況について】



○事故の場合：事故が起きたのはどうしてだと思うか？

○ヒヤリハットの場合：ヒヤリハットで済んだのはどうしてだと思うか？

危険情報を把握、予見できなかった 危険事象の対応方法を知らなかった 集中力、注意力がなかった 避難退避がうまくいかなかった 足元の安全が確保できていなかった 他隊(員)との連携活動がうまくいかなかった その他：足場の悪さと、前方の隊員の動向に気を取られていた

○心理・体調について

a. あせりを感じていた

・早く、現場到着や、活動をしなければならないという“あせり”を感じていた。	はい
・被害拡大が消防活動を上回っており“あせり”を感じていた。	いいえ
・周辺の野次馬などにより“あせり”を感じていた。	いいえ

b. 注意力が欠如していた

・1つの事象に集中し、他の事象への注意力を欠いた。	はい
・活動終息(鎮火等)や活動内容が些細だったため注意力を欠いた。	いいえ
・体調不良や疲れにより注意力を欠いた。	いいえ

c. 経験・知識が不足していた。

・活動内容が、自己の能力や技量を超えていた。	いいえ
・活動中に起こりうる危険について認知していなかった。	はい
・活動に対する経験が不足していた。	はい

d. 心身の不調があった。

・体調が悪かった。	いいえ
・悩み事があった。	いいえ

○装備・資機材について

e. 資機材の故障・不具合があった。

・装備・資機材自体に問題があった。	いいえ
・装備・資機材の使用方法が誤っていた。	いいえ
・装備・資機材の対処能力を超えていた。	いいえ
・必要とする装備・資機材がなかった。	いいえ

○活動環境について

f. 障害物や自然環境(雨・濃煙)によって視界がさえぎられた。

・障害物(建物等)のため周囲の状況が見えなかった。	いいえ
・特異環境(煙、暗闇、降雨等)のため周囲の状況が見えなかった。	いいえ

g. 行動しにくい環境だった。

・狭隘な場所であった。	いいえ
・暑かった(寒かった)。	いいえ
・野次馬が多かった。	いいえ
・現場周辺の地理に不案内だった。	いいえ

h. 足場が悪かった。

・足元が躓いたり滑りやすかった。	はい
・足元の強度が不足していた。	いいえ

○指揮・管理について

i. 適切な指示が得られなかった(適切な指示を与えられなかった)。

・活動指示が得られなかった。(無線が通じない等。)	いいえ
・指示内容に誤り・偏りがあった。	いいえ
・指示内容が実施困難であった。(周辺環境に、隊員技量の把握に欠けた。)	いいえ

k. 関係者間の情報伝達・役割分担が不十分だった。

・隊員の連携が不十分だった。	はい
・隊員が不足していた。	いいえ

○その他

l. その他の理由があった。

--

【事故発生後の取り組みについて】



○注意力欠如、焦り等の対策について

本事案は活動初期において、現場経験の少ない隊員による事故であった。
焦り、慌て、狼狽は事故に直結することを認識し、冷静に危険を感じ取った中で活動する。また、活動前に不安が見られる隊員は現場に投入しない。

○装備・資機材の対策について

個人装備として、山岳用のヘルメット、雨具、登山靴、スパッツ等の山間地救助対応装備を新たに導入。長時間の活動や斜面等の足場の悪い場所での行動力が向上した。
急傾斜地での資器材の携行要領、搬送方法について検討した。

○活動環境の対策について

訓練塔を使用しての訓練のみではなく、基本、応用訓練を実施した上で、実際に山岳（山間）地での踏査訓練、救助訓練を実施。
浮石等排除できる危険はあらかじめ排除した中で活動する。

○指揮・情報伝達の対策について

活動中の危険箇所等の情報伝達・共有を徹底する。

山間地救助活動中の落石による隊員の受傷事故図

1 全体図



2 事故発生場所図



3 進入経路図

